



令和5年度 奈良女子大学 大和・紀伊半島学研究所

古代学・聖地学研究センター主催シンポジウム



長崎県根獅子遺跡
(長崎大学医学部 所蔵)

勾玉談義

— 考古学から見たその妙なるモノの歴史 —

令和5 (2023) 年 11 月 18 日 (土)

奈良女子大学 理学部G棟 201号教室

〒630-8506 奈良県奈良市北魚屋西町

(近鉄奈良駅より北へ徒歩約10分、

詳細は裏面の地図も御覧下さい)

プログラム

10:00 ~ 10:15 開会の挨拶と趣旨説明

10:20 ~ 11:00 勾玉の出現について

川崎 保 (長野県埋蔵文化財センター)

11:05 ~ 11:45 縄文時代後晩期の東日本の勾玉の系統

森山 高 (春日部市教育委員会)

11:45 ~ 13:00 昼食休憩

13:00 ~ 13:40 弥生勾玉の成立過程

大賀克彦 (奈良女子大学)

13:45 ~ 14:25 翡翠製丁字頭勾玉の成立と意義

谷澤亜里 (奈良文化財研究所)

14:30 ~ 15:10 古墳時代における琥珀製勾玉の基礎的研究

公門杏実 (同志社大学)

15:25 ~ 16:25 総合討論

16:25 ~ 16:30 閉会の挨拶



大阪府馬場川遺跡
(東大阪市 所蔵)



愛媛県土壇原遺跡
(愛媛県歴史文化博物館 所蔵)



滋賀県真野古墳
(大津市埋蔵文化財調査センター 所蔵)

時間：午前10時～午後4時30分 (午前9時30分開室)

参加費：無料

定員：先着100名

申込方法：事前申込制 (詳細は裏面を御覧下さい)

〔趣旨説明〕

勾玉は縄文時代に出現し、現代にまで続く7000年を超える長い歴史を持っている。それほど複雑な形態ではないにも関わらず、勾玉のような形態を持つ装身具が長く用いられ続けたことは、世界中でも日本列島に固有の現象である。そのため、勾玉の起源や意味については、古くから広く関心を集めてきた。ただし、考古学的な観点から見ると、勾玉の単系性を前提とするような問い方は適切とは言えない。個々の勾玉の形態も細部は驚くほど多様であるし、勾玉の存在が希薄な時代も経過するからである。

本シンポジウムでは、様々な時代の勾玉を対象として、祖型との関係や生産集団の共通性に起因する形態のまとまりに注目しながら、その多様性を読み解き、それでもなお、一つのモノとしての同一性を認め得るか、問い直してみたいと思う。



和歌山県和佐遺跡
(御坊市教育委員会 所蔵)



長崎県景華園遺跡
(長崎県埋蔵文化財センター 所蔵)



大阪府山賀遺跡
(大阪府教育委員会 所蔵)

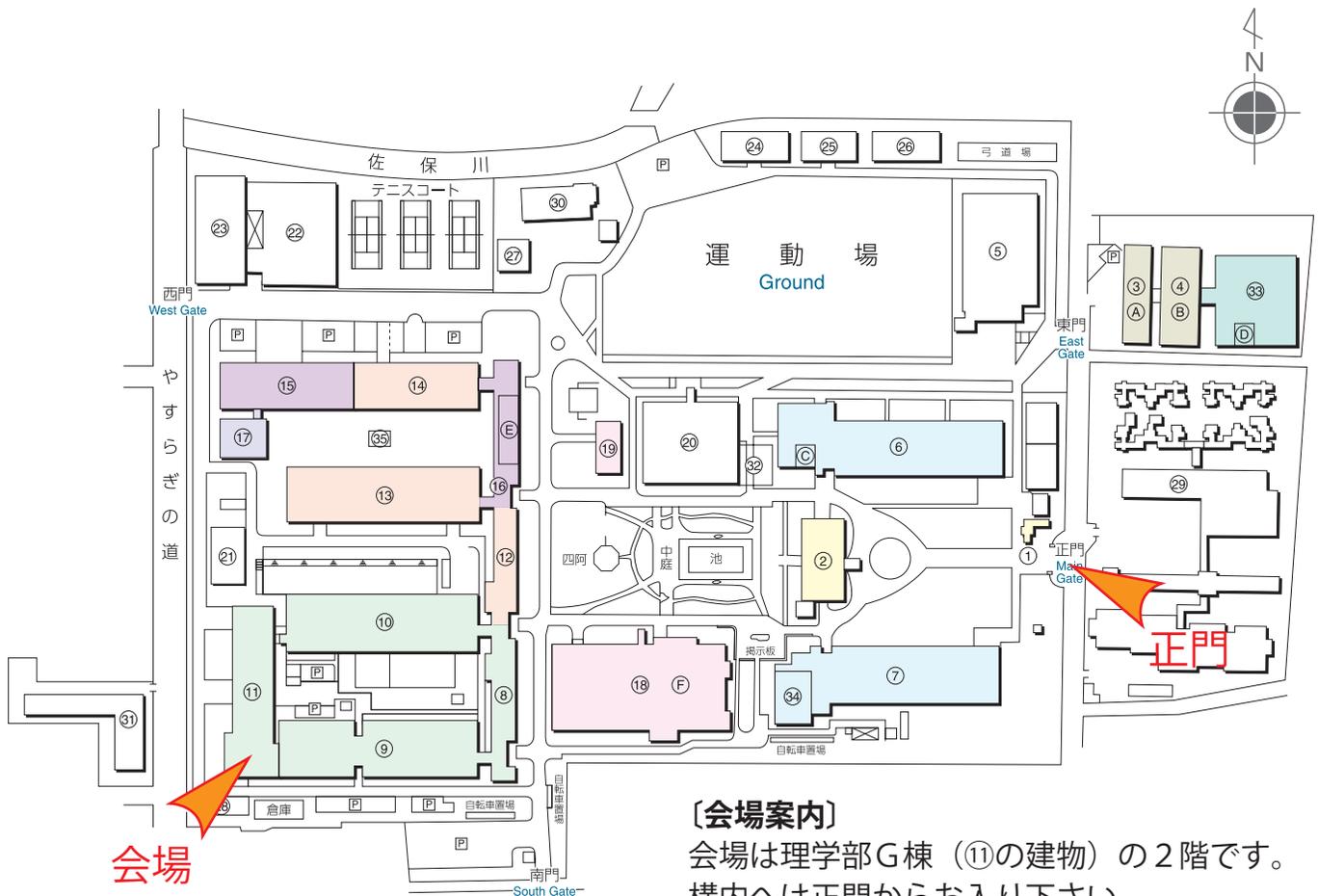


大阪府鬼虎川遺跡
(東大阪市 所蔵)

〔申込方法〕

氏名と連絡先（メールアドレス）を御記入の上、下のアドレスまでメールでお申し込み下さい。定員に達した時点で、受付を終了させていただきます。

e-mail: kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp



〔会場案内〕

会場は理学部G棟（⑪の建物）の2階です。構内へは正門からお入り下さい。